

義援金寄贈のための被災地行状報告書 気仙沼

平成24年2月15日 事務局長 市川 顯

昨年7月1日から12月31日迄を義援募金第2回目として募集し、約41万円が集まりました。あゆみの箱の災害対策費から30万円を加えて、¥714,938-を義援金として寄贈することになりました。寄贈先は

特定非営利活動法人 泉里会 ケアホームめぐみ

住所：宮城県気仙沼市本吉町中島141-6

です。

2月13日（月）、7時56分の東北新幹線はやて103号で、途中駅の一関に向かいました。同行するのは宝井駿之介理事ですが、宝井理事は、10日から北上市で公演があったため、既に北上市に滞在しています。

一関の駅舎で宝井理事と待ち合わせ、JR大船渡線に乗り換え、気仙沼へと向かいました。心配だった寒さもあまり感じる事がなく、青く晴れ渡った空の色と、枯れ草に積もった雪の白さが、きらきらとまぶしいほどです。列車内は差し込む日差しと暖房で、汗ばむほどの温かさでした。

大船渡線で約1時間半、気仙沼駅に着きました。町並みは、山間ののどかな町、としか感じられません。昨年7月に行った釜石の市街地とは違って、被災の傷跡が見当たらないのです。

ここから先の鉄道は、北に向うも南に向かうも、津波の被害で全壊しています。車の移動しか手段はありません。

タクシーに乗り、運転手さんと地図を見ながら、番地を探しながら行くことになりました。「途中のセブンイレブンで（道を）聞いてもいいですか？」運転手さんも、自信がなさそうです。仮施設だから、判らないのも当然かもしれません。

駅舎から5分ほど走ると、平地に出ます。「この辺りまで水が来たんですよ」と運転手さん。景色は徐々に被災地の様相を呈してきます。ところどころに



パワーショベルや大型トラックが働いていて、ま新しいプレハブの工事宿舎もそこそこに見えます。瓦礫が片付けられて、残された土台だけが繋がる景色が何キロも続きました。

タクシーが走る幹線道路を、津波は、軽々と乗り越え、河川や谷間を逆流し、家屋を、人々をのみ込みました。左手に海岸を、右手に丘陵を見ながら、被災の広さに圧倒されそうです。その恐ろしかった海は、何事もなかったかのように、明るい日差しの中、穏やかな豊かな三陸の海の表情をしています。

この一帯がきれいに片付いたとしても、災害危険地域に指定されて、今後は、一軒の家が立つこともないのです。残された土地のどこに住まいを確保するのか、被災地の不安は、わたしたちの想像をはるかに超えたものだと思います。

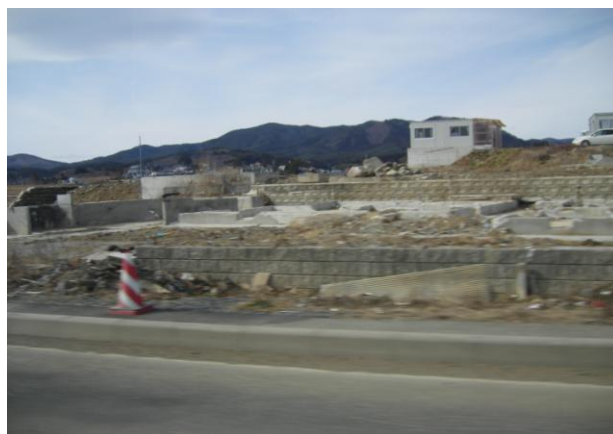
それにしても、これは、11か月前の災害です。11ヶ月経っても未だにこの状況では、「復興」などというのは、全く目途の立たない事のように感じられます。1日も早い復興と、わたしたちは言葉にしますが、そう言うことの無力感に言葉を失ってしまいます。

未だに生々しさの残る地域を過ぎて、高台に向かう途中、コンビニで道を聞き、更に少し高いところに目的の施設を見つけました。

特定非営利活動法人泉里会は、自閉症児者と知的障害者、身体障害者を対象とした事業を行っています。「障害」と言われるものは、「知的障害」「精神障害」「身体障害」の3つに分けられています（障害が重複している場合は、「重度障害」になります）。したがって、この施設は、3障害をすべて受け入れていることになります。

NPOで運営してゆくには、資金面で大変な苦労があると思います。津波で、建設したばかりの通所施設と7棟の莓ハウスが流失してしまい、ケアハウスめぐみと、流失した建てたばかりの施設建設費の借金だけが残りました。復興に必要な資金は3,700万円、これまでの補助金と寄附金の合計が150万円、とても足りません。

わたしたちの義援金は、これに較べたら微々たるものです。ただ、街頭で呼びかけた募金には、被災地の方々の力になりたいという、温かい心がこもっています。寄附をくださった



方々の真心が感じられます。それがあつた限り、あゆみの箱の活動は、たゆまず続けなければなりません。

午後1時40分、ケアホームめぐみに到着しました。ホームの隣には、新しく組み立てられたプレハブがあります。精神障害者のための仮施設です。自閉症児が居るために、どうしても、少し広いスペースが必要とのことでした。(自閉症は、自分の中に音楽や物語を取り入れて思いこみ、踊ったり、動き回ったりします。かなり激しい動きになり、危険な場合があります。)

予定より20分早かったのですが、ホームのロビーには入所の方や近所の方々が集まっていました。みなさんの目的は、宝井駿之介理事の講談です。この日は、宝井理事が慰問公演をすることになっていたのです。

午後2時になり、宝井駿之介公演が始まりました。釈台がありませんから、代わりを探して、一斗缶を見つけました。大爆笑の中、さわりは、信玄、信長、家康が登場する「長篠」か「設楽ヶ原」(わたしにはどちらか判りませんが)、その後「高野長英」、45分間の熱演です。講釈の途中、宝井理事は、一人一人と握手を交わして、励ましていました。

慰問公演は、大成功です。色紙代わりのB4の画用紙に何枚もサインをしたためました。

施設理事長の挨拶の後、宝井理事から目録を贈呈しました。(義援金は、前もって金融機関に振り込んであります。)午後3時過ぎ、施設でのすべての予定を終えて、再びタクシーに乗り、気仙沼駅へと向かいました。

ささやかではあつても、あゆみの箱らしい被災地訪問が出来たように感じた一日ではありました。(了)

